

## 銭湯の思い出

大津 隆文

三月に小金井公園に隣接する「江戸東京たてもの園」を訪れた。園内には江戸から昭和にかけての由緒ある建物が多数移築されている。高橋是清邸など著名な建物の他、荒物屋、乾物屋等の商家も多く興味深かった。中でも懐かしく感じたのは子宝湯という銭湯だった。

中に入ると番台があり、男女に分かれて脱衣場、浴場となり、浴場の壁には雄大な富士山が描かれていた。子供の頃そして独身時代に通っていた銭湯の記憶がよみがえってきた。

小学生の頃我が家にはお風呂がなく、銭湯に行っていた。家からは二十分近くかかり、冬などは折角温まった体が冷えてしまった。その代り気候の良い時は家族で影踏みをしながら帰ったりしたのが楽しい思い出。時々脱衣場で同級生のK君と一緒にだったが、お互い無口でオッスと挨拶する位だった。後年そのK君が芸者殺しで逮捕されると新聞に出て本当に驚いた。あの童顔からは今以て信じられない。

何年かして父が家の軒下に風呂場を作ってくれた。父はその作業を一人でしたが、近所の人が見物に集まりあれこれ口を挟んでいた。印象に残っているのは、ある人から、セメントの壁塗りは素人がやると下へ垂れ下がってくるのに全然垂れていない、大したものだと褒められ、父も嬉しそうだったことだ。尋ねないままだったが、父は若い頃大工さんの手伝いでもしていたのだろうか。畳一畳程度で風呂桶と洗い場だけのささやかな代物だったが、内風呂は本当にありがたかった。

銭湯、公式には「一般公衆浴場」というらしいが、かつては全国に二万軒以上あったのが最近では三千軒足らずになっているという。淋しい気もするがこれも時の流れだろうか。他方で健康ランド、サウナ、スーパー銭湯などの「その他の公衆浴場」という分野は増加しているようだ。

私も銭湯には縁遠くなったが大好きなスーパー銭湯はある。それは高尾山口の駅すぐの高尾山温泉だ。登山の後入浴し、屋上の露天風呂から山並みを眺めるのはまさに至福だ。